

島じまのおいたち ～琉球列島の古地理図～

地層や化石から、地質時代（地球の歴史）の陸地や海を復元した地図を「古地理図」といいます。下の6枚の図は古第三紀（約6,500万年前）から現在までの琉球列島の古地理図です。

古い順で並べた①～⑥の時代の特徴について、文中の（ ）内にあてはまる語句を、語群より1つ選んで入れてみよう。

（白線：現在の地図 薄い灰色：陸地 濃い灰色：海洋）

～語群～

センニンガイ 海水面 1,500m 琉球サンゴ海 嘉陽層 花粉
黒潮 島尻海 石炭 津波石 3,000m 琉球石灰岩 低下 上昇

①



②



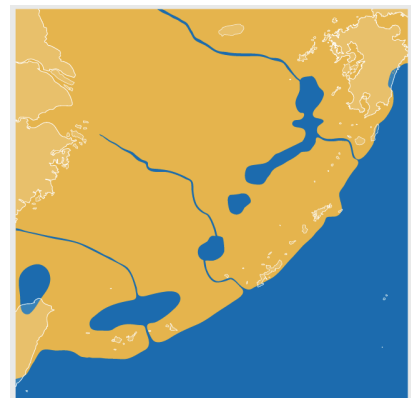
③



古第三紀～新第三紀中期(約6500万～500万年前)

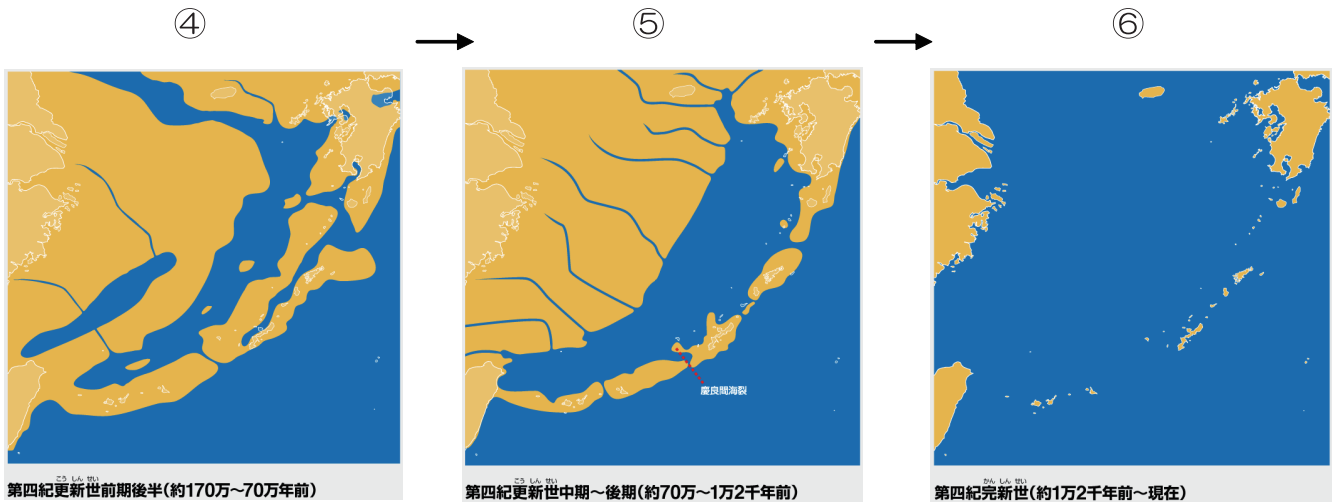


新第三紀鮮新世～第四紀更新世前期前半(約520万～200万年前)



第四紀更新世前期中盤(約200万～170万年前)

- ① 約 5,000 万年前の琉球列島では、海溝付近の深い海（5,500～3,500m）で（ ）層、宮良石灰岩、野底層のグリーンタフ（緑色の火山灰層）が堆積しました。同じ頃、現在のニューギニア付近で大東島の基盤（火山島）が形成されました。中新世になり、南琉球では（ ）層を含む八重山層群が形成されました。
- ② 鮮新世前期には久米島付近に、大陸からのびる河口（現在の揚子江）がありました。これまであった陸地は一部を残して陥没し、（ ）ができ、大陸の大きな河川から流れ込んだ砂や泥が（ ）以上もの厚さに堆積しました。
- ③ 温帯の植物であるスギ属の炭化木や（ ）化石、亜熱帯から熱帯に生息する有孔虫や（ ）などの貝化石も発見されていることから、（ ）以上の高い山地が存在していたのではないかと考えられています。



出典：「琉球弧の成立と生物の渡来」より一部改変

- ④ およそ140万年前になると海域は拡大し、浅海には黒潮の影響などでサンゴ礁が発達し「（ ）」と呼ばれるようになりました。
この海に堆積したのが（ ）です。
- ⑤ 約2万年前の最終氷期には（ ）が約100m以上も（ ）し陸域が広がりました。琉球列島は周囲に流れる（ ）の影響もあり、それほど寒冷的な気候ではありませんでした。
- ⑥ 最終氷期が終わると海水面はしだいに（ ）し、現在のような形になりました。南琉球では、約2,000年前と西暦1771年に大きな津波が発生し、宮古・八重山諸島ではその時運ばれた巨大な岩塊「（ ）」を見ることができます。

展示パネルをよ〜く
読んでみるのじゃ



コラム：「明和の大津波」とは・・・

1771年4月24日午前8時ごろ、北緯24.0、東経124.3度(石垣島の南南東35km付近)でM7.4の地震が起きました。地震の揺れによる被害はほとんどありませんでしたが、この地震より津波が発生し、石垣島や宮古島で合わせて当時の人口の1/3にあたる、およそ12,000人も犠牲者がでました。津波の高さについて古文書では85mという記述がありますが、研究の結果、石垣島35m、15m、宮古島・伊良部島11mであったと推定されています。地震の規模に比べて、津波が大きいことから「海底地滑りによる地震」であったのではないかと考えられています。